

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地解消と農地利用集積 》 ～

1 農業委員会名・委員名

さいたま市農業委員会
高橋 秀男推進委員

2 取組内容

下記農地の利用権を設定した。

- ・さいたま市岩槻区大字馬込 416 m² 畑
- ・さいたま市岩槻区大字馬込 613 m² 畑

（耕作者は令和 3 年に新規参入で農業を始め、毎年借入農地を増やしている。）

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	5 月 31 日	耕作者から、上記農地を借りられないか相談を受ける。（野菜苗用のビニールハウス用地、10 年以上耕作がない農地）
経過	7 月 11 日	農業振興課に土地所有者の情報を確認。
	7 月 12 日	土地所有者に使用貸借できないか相談し、無料で借りられることとなる。
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

さいたま市農業委員会事務局

5 取組結果

遊休農地発生防止と耕作者の経営規模拡大に繋げることができた。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 新規参入の促進活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

川口市農業委員会
川口市農地利用最適化推進委員 船津新一、細田敏雄



2 取組内容

農地の管理に苦慮していた農地所有者と新規就農のために農地を探していた方を農地利用最適化推進委員が中心となってマッチングを行い、期間3年の賃貸借契約に繋げるなど新規参入の促進活動を行った。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	8月	新規就農のために農地を探している方から相談
経過	9月	農地の管理に苦慮していた農地所有者が川口市農地情報登録制度（川口市農地バンク）へ登録申請
	9月	農地利用最適化推進委員を中心に農地を探している方と農地所有者をマッチング
	11月	利用権設定による3年間の賃貸借契約の締結（273㎡）
	2月	じゃがいもの作付けを開始

4 連携した組織（団体名）

川口市経済部農政課

5 取組結果

じゃがいもの作付けが実現し、この賃貸借をきっかけに耕作者の意欲が向上している。また、更なる利用権設定及び賃貸借契約の締結を進めており、今後も耕作地の拡大や継続した耕作が期待できる。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 農地中間管理事業の推進 》 ～

1 農業委員会名・委員名

鴻巣市農業委員会

秋池 功 農地利用最適化推進委員



2 取組内容

大芦地区における農地中間管理事業の推進を目指し、地域計画に関する目標地図の原案作成について話し合いを行った。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	
経 過	7 月 4 日	地域計画に関する目標地図の原案作成について話し合い

4 連携した組織（団体名）

市農政課、市農業委員会事務局、さいたま農林振興センター、公益社団法人埼玉県農林公社

5 取組結果

関係各所との情報共有や共通認識を確認し、地域計画に関する目標地図の原案作成を推進した。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 取組の題目（テーマ）を記入してください 》 ～

1 農業委員会名・委員名

上尾市農業委員会

市村農地利用最適化推進委員



2 取組内容

人・農地プランで話し合い・アンケートの収集を始めていた地域において、あらためて地域計画策定に向け、今後の農地管理について意見交換を行うため、2年ぶりの話し合いを開催した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	自分の住む地域において、今後地域全体で農地の管理を行っていく必要性を感じているため。
経 過	1 月 19 日	市（農政課）と調整し、打ち合わせの開催を決定・通知
	2 月 4 日	地区の公民館に於いて話し合いを開催。その際、新規就農者も呼び、意見を聴取した。
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

上平地区上組農家組合、上尾市農政課、さいたま農林振興センター、埼玉県農林公社

5 取組結果

各々の意見を共有することができた。今後地域計画を策定していくかどうかも含め話し合いを重ねていく。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 担い手への農地集積 》 ～

1 農業委員会名・委員名

新座市農業委員会

清水泰順農業委員



2 取組内容

担い手への農地集積・集約化活動

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	5 月上旬	地区に精通する不動産会社から「農地を相続した農家が、規模を縮小するため、一部の農地を貸したい意向がある。」と情報を受けた。
経過	5 月中旬	現地を確認したところ、作付けがなく耕耘管理されている状態であることが分かった。
	6 月上旬	農業委員会、地域の推進委員と情報を共有した。
	10 月上旬	同不動産会社から借受希望者が決定したとの連絡を受けたので、農業委員会と情報を共有した。
	12 月 1 日	農地法第 3 条の許可による農地の貸借が成立し、借受者によるライチ及びイチジク用ハウスの建設が始まった。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会、農地利用最適化推進委員、不動産会社

5 取組結果

借受者は、同地区でイチゴを経営しており、今回のライチ、イチジクの経営計画を合わせて、令和 6 年 1 月 9 日付けで認定農業者になった。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 荒廃農地調査と農地集約化 》 ～

1 農業委員会名・委員名

桶川市農業委員会

池田推進委員外 7 名

2 取組内容

荒廃農地調査を実施し、新たな荒廃農地の発生が予見される場所を把握した。その情報を地域の集まりの場で共有し、担い手に集約できるよう努めた。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	11 月 1 日	荒廃農地調査の実施
経 過	12 月上旬	地域の集まりの場で、調査の中で気づいた荒廃農地について報告し、状況を地域で共有した。
	1 月上旬	荒廃農地の所有者などについて、近所に親族などがいないか聞き取りをした。
	2 月上旬	地域の担い手に管理を引き受けてもらえない聞き取りをするが、手一杯なので断られる。
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

なし

5 取組結果 または今後の予定（取組途中の場合）

取組中。引き続き、担い手を探索する。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 本地区における農地中間管理事業推進 》 ～

1 農業委員会名・委員名

伊奈町農業委員会

中村勝行農業委員

高山政和推進委員

写 真

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係るほ場等）を添付してください

2 取組内容

本地区の担い手への農地集積、集約化に向けて、農地中間管理事業を推進した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	8 月 4 日	本地区農地中間管理事業耕作者説明会
経 過	9 月 6 日、7 日	本地区農地中間管理事業書類作成会
	2 月 8 日	本区農地中間管理事業耕作者打合せ
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

町、さいたま農林振興センター、埼玉県農林公社

5 取組結果

本地区について農地中間管理事業へ移行した。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地発生防止・解消活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

川越市農業委員会

大野 美智明 農業委員

2 取組内容

遊休農地を地域の「コシヒカリ栽培組合」と協力し、除草作業等を行って解消した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	2月11日	地区の遊休農地について苦情あり。 コシヒカリ栽培組合役員会議に於いて地権者の同意を得た上で、組合が対応することとした。
経過	2月17日	コシヒカリ栽培組合の役員と共に除草作業等を実施した（10a）
	2月19日	除草作業を実施した圃場に対し、消防の許可を受けた上で、焼却することを組合に要望される。
	2月28日	農業委員会事務局へ野焼きについて相談した上、川越消防署に届出する。
	3月3日	野焼き実施。その後、耕うんをする。

4 連携した組織（団体名）

コシヒカリ栽培組合

5 取組結果

組合と協力し、10aの遊休農地を解消した。
その後、担い手を斡旋中。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 相続人が管理できない農地の流動化 》 ～

1 農業委員会名・委員名

所沢市農業委員会

田中 宏 農業委員



2 取組内容

令和 4 年 7 月まで管理されていた 18a の畑が荒れていたもので、所有者宅を訪問したところ、ご主人が 5 月にご逝去され困っていた。他にも 20a ほど畑を所有しているとの事で、近隣農家に借り受け希望を確認したうえで、事務局で実施している「所沢市農地サポート事業」への登録を勧めた。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和 4 年 7 月	それまで管理されていた畑が手入れされず荒れていることに気付く。
経 過	令和 4 年 7 月	所有者宅を訪問し、事情を伺う。 営農者のご逝去直後という仕方がない状況だったので、トラクターによる除草を代わりに行った。
	令和 4 年 8 月	「所沢市農地サポート事業」の制度を案内し、手続きを勧めた
	令和 5 年 2 月	相続登記が完了したときいたので、登録手続きのため事務局を案内した。
	令和 5 年 6 月	15a 分について貸借が成立し、農地の流動化につながった。

4 連携した組織（団体名）

--

5 取組結果

所有者では管理しきれない農地の流動化ができた。残る農地についても近隣農家、新規就農者へ声を掛けていきたい。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～《移住者を対象とした農業体験会開催を通じて、農業の魅力発信》～

1 農業委員会名・委員名

飯能市農業委員会

農地利用最適化推進委員 浅野晃市



2 取組内容

飯能市の移住制度である「飯能住まい制度」を活用して移住された方と、地域（南高麗地区）との交流の場として、じゃがいもの植え付けおよび収穫の体験会を開催。

今回の開催については、移住された方に、南高麗地区と農業の良さをさせていただくことを目的としたものである。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	11月	飯能市の移住制度である「飯能住まい制度」を活用して移住された方と地域との交流の場を持つことを目的として、じゃがいもの植え付けおよび収穫体験会を企画し、農業の良さを知っていただくこととした。 今回植え付けする品目をじゃがいもにした理由は、初心者の方でもつくりやすい品目であるため。
経過	12月	植え付け体験を3月、じゃがいもの収穫体験を6月に計画することとなった。
	1月	協力をいただける農地所有者の方に連絡および相談をする。 鳥獣被害対策が必要であることを確認した。
	2月	協力をいただける農地所有者の方に畑を耕していただいた。 市の鳥獣被害対策室と調整をして、電気柵設置を講習会という形で開催することとなった。
	3月	地域に体験会の案内を配布。 電気柵の設置。 じゃがいもの植え付け体験を開催。

4 連携した組織（団体名）

南高麗地区まちづくり推進協議会、南高麗地区行政センター、鳥獣被害対策室

5 取組結果

体験していただいた方に農業の良さを知っていただき、また、地域との交流の場となった。
遊休農地の解消につながった。
6月にじゃがいも収穫体験会を実施予定。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 地区内農地の担い手確保と遊休農地の発生防止 》 ～

1 農業委員会名・委員名

坂戸市農業委員会

松永 貴夫 農業委員



2 取組内容

担当する片柳地区は、担い手を含めた農業者の高齢化が進む中で、耕作の継続が困難という相談を受けることが多数あった。その中で、借り手として長年耕作をされていた方が亡くなり、新たな引き受け手を探してほしいとの要望があり、地区内の担い手と 2 件（約 20a）の利用権の設定ができた。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	9 月 19 日	所有農地の借り手が亡くなり、新たな引き受け手を探してほしいとの要望が A 氏から農業委員会を通じてあった。
経過	10 月 25 日	地区内で引き受け手を探したところ、担い手 B との利用権設定が行われた。
	10 月 29 日	A 氏と担い手 B の利用権設定の話を聞き、C 氏の農地も亡くなった借り手が耕作されていたため、同様の要望があった。
	11 月 1 日	地元農業者に相談したが、引き受け不可の返事があった。
	11 月 6 日	担い手 B に相談したところ、C 氏の農地とも利用権設定がされた。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会

5 取組結果

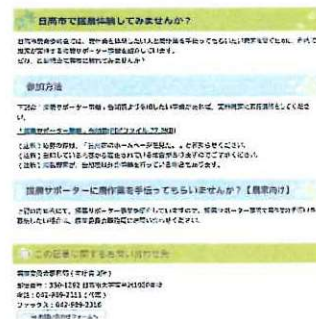
担い手を含め農業者の高齢化が進んでいる地区であり、今後も農地を譲りたい、耕作依頼をしたいという要望が増える状況にある。その中で、担い手から力強い返事をもらうことができ、今後の片柳地区の農業経営に安心感を覚えた。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 援農ページの作成・公開 》 ～

1 農業委員会名・委員名

日高市農業委員会
山口推進委員、福井会長、清水委員、 松田委員、道谷委員



2 取組内容

農作業を体験したい人と、農作業を手伝ってもらいたい農家をつなぐために、市内で農家実施する援農サポーター事業を、市のホームページを活用し紹介する。

援農サポーター事業が活発になることで、日高市の農業の発展の一助となることを目指している。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和4年4月	山口推進委員より提案
経過	5月	実行委員会立ち上げ
		随時、実行委員会や農業委員会と調整
	令和5年9月	市HPにて情報公開

4 連携した組織（団体名）

農業委員会

5 取組結果

市HPにて公開を行った。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

《農業委員からの働きかけによる遊休農地の解消》

1 農業委員会名・委員名

ふじみ野市農業委員会
柳川 嗣於 農業委員



2 取組内容

令和5年9月から委員の担当地域内で草のある農地1筆の農地について、翌月に委員が土地所有者に適正な管理の依頼をしたため、遊休農地が解消された。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和5年 4月～9月	令和5年4月～9月に行った委員担当地区にある遊休農地パトローについて気にかけていた。
経過	9月中旬	農業委員会から農地の適正な管理の依頼文書を所有者あてに送付。
	10月上旬	委員が所有者に会い、農地の適正な管理について依頼。
	11月上旬	農業委員会にて農地の調査パトロール中、草刈後の適正な管理されている農地を確認。遊休農地が解消された。

4 連携した組織（団体名）

--

5 取組結果

委員が所有者に適正な管理のお願いをしたことによって、1筆、953㎡の遊休農地が解消された。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 集積・集約化活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

東松山市市農業委員会

農業委員：

久保田節子、鹿田明、松崎昭三

農地利用最適化推進委員：

木村正雄、坂上夏苗、田口豊



2 取組内容

市内早俣地区（一部）における集積・集約のため、アンケートや説明会などを実施した

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	
経 過	8月18日	対象地区内の土地所有者、耕作者に対しアンケートを実施
	9月	アンケートの結果と説明会の開催通知を発送
	11月 11日	地域計画・中間管理事業説明会の開催
	3月	集積案に基づく面積の集計、目標地図素案の作成

4 連携した組織（団体名）

市農政課、埼玉県農林公社、都幾南水土里会（水利組合）

5 取組結果

中間管理事業対象面積：21.3ha

休耕が解消される面積：1.6ha

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地の発生防止・解消活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

嵐山町農業委員会

農地利用最適化推進委員 T 氏



2 取組内容

約 20 年、遊休農地となっていた約 3.7 a の畑を借りて、再び耕し、野菜等の栽培が出来るようにする。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	所有者の体調が悪く、長年耕作が行われていなかったため、輪作用地として使用したいと思った。
経 過	2 月 20 日	草刈、伐根、耕耘を始める。
	3 月 25 日	整備した一部にジャガイモを植え付けした。
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

なし

5 取組結果

今後、他の野菜も植え付け予定

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 近隣農地の利用調整支援 》 ～

1 農業委員会名・委員名

小川町会
吉田 正巳推進委員



2 取組内容

隣家の農地について、これまで所有者の姉が耕作していたが令和5年から耕作をやめたので所有者に意向確認の上、借り手をさがした。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	3月頃	月末で所有者の知人が耕作していた圃場を返還することになり、その後の耕作者がいないと相談を受けた。
経過	3月頃	「今後きれいに使ってもらえる人に貸したい」所有者の意向を確認。
	6月頃	農業委員会事務局に相談し、農業委員会で情報共有をお願いした。
	10月頃	事務局から借受希望者がいる旨の連絡を受け、希望者と話し合い。
	11月頃	3筆中2筆について貸借が成立し、11月から借り手による耕作が始まった。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会事務局

5 取組結果

相談のあった3筆のうち2筆について、移住者の家庭菜園用として利用されることになった。残り1筆は引き続き借り手を募集する。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地解消 》 ～

1 農業委員会名・委員名

吉見町農業委員会
松本 眞一 農業委員

2 取組内容

- ・ 農業委員・農地利用最適化推進委員を中心に土地所有者や地域の耕作者との検討会議や農地利用意向アンケートの実施。
- ・ 土地所有者の意向を踏まえ、JA 出資型農業法人に対する遊休農地再生・活用奨励事業を活用し遊休農地の解消。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和 2 年 1 0 月	地域の耕作者から遊休農地解消の依頼
経過	令和 2 年 1 1 月	検討会議（地権者、耕作者を集めての検討会議）
	令和 4 年 8 月	地域推進会議
	令和 4 年 1 2 月	地権者を訪問等し、現状の説明及びアンケート（利用意向）の実施
	令和 5 年 3 月	アンケート結果を受けて解消に向けて、地権者へ再度アンケートを実施
	令和 5 年 6 月、1 0 月	地域推進会議（2 回）
	令和 5 年 1 2 月 ～ 令和 6 年 2 月	遊休農地解消作業

4 連携した組織（団体名）

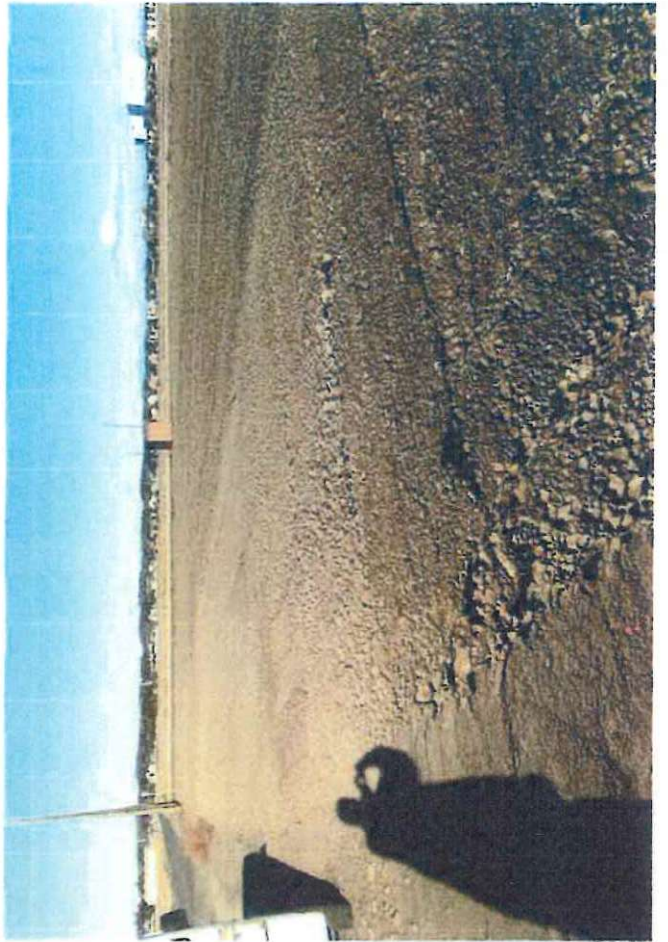
吉見町産業振興課、埼玉県（農林振興センター）、埼玉県農林公社、（株）比企アグリサービス

5 取組結果

JA 出資型農業法人に対する遊休農地再生・活用奨励事業を活用し、農振農用地内の20筆、4,018㎡の遊休農地を解消し、農地中間管理事業を活用した。

地権者及び耕作者を集めて検討会を実施しても解消に至らなかったが、諦めず年度を跨ぎながらも取り組んで遊休農地を解消した。

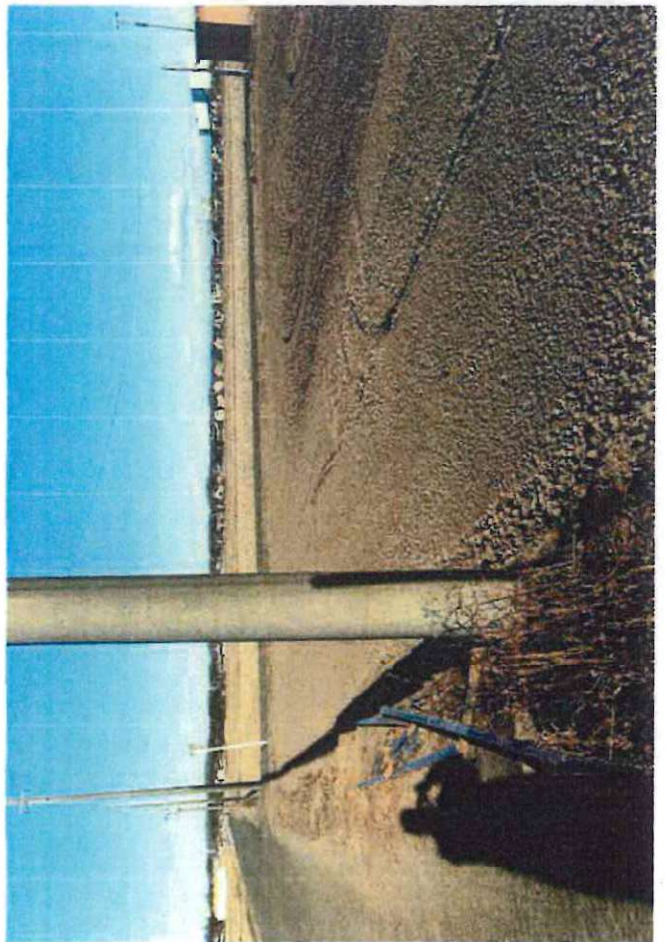
3



4



1



2



A

3



4



2



B



4



1



3



2

A

3



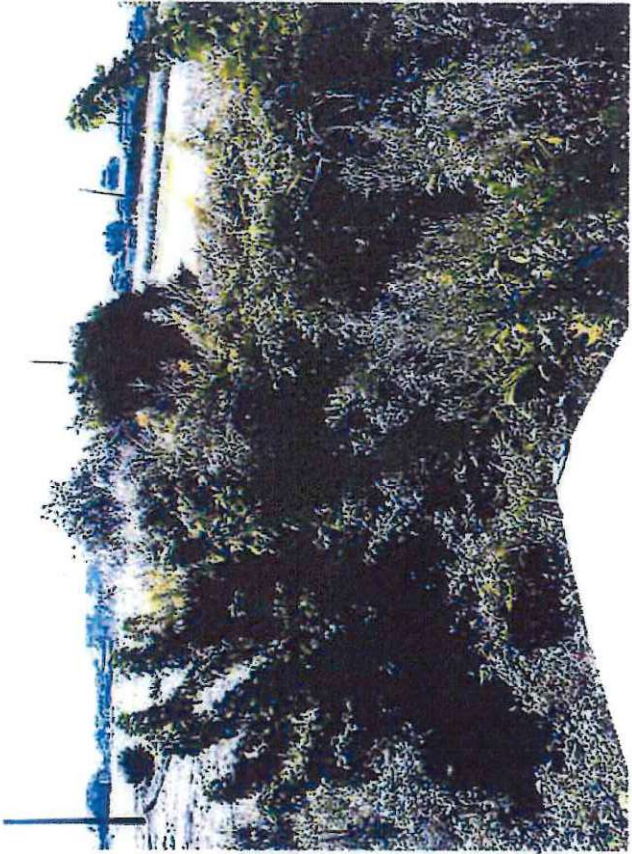
2



1



4



B

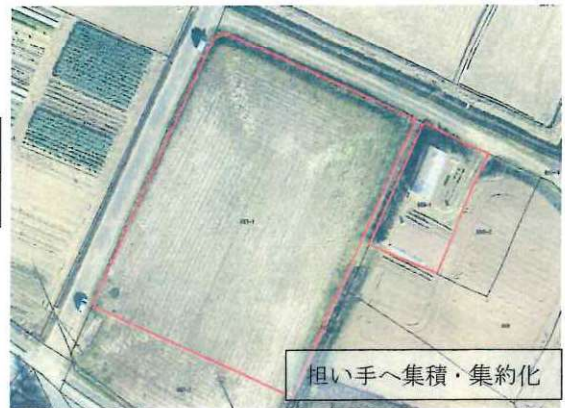
農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 日頃の相談対応と遊休農地の解消活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

鳩山町農業委員会

飯島千春 農業委員



2 取組内容

○農地の有効利用

地元農家からの相談対応を通じて農地の幹旋等に努めた。

○遊休農地発生防止・解消活動

遊休農地の解消活動に取り組み、遊休農地の発生防止を図った。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	4 月	農地パトロール中に農地所有者から、農地の貸出希望の相談を受ける。
経 過	5 月	自身の耕作地と近接していることから、自身が借入することを申し出る。利用券設定により、耕作が再開された。
	1 月・2 月	農地パトロール中に農地所有者から、農地の貸出希望の相談を受けたが、受け手不在のため、幹旋不調に終わる。
	適宜	近隣の不耕作地の草刈を行い、遊休農地の発生防止に努める。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会、町農政担当

5 取組結果

地元農家からの相談対応に真摯に対応し、新たに約 37 a の不耕作地が担い手に集積・集約された。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 ちちぶ吉田くるみの会の活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

秩父市農業委員会

高田 忠一推進委員



2 取組内容

地域有志で、遊休農地の胡桃の木を育て、胡桃樹皮を活用した手提げ籠バッグや長財布、アクセサリ等を作成している。

管理困難な土地所有者の農地の草刈り、果樹等の剪定作業等も行いながら、「守るべき農地は自ら守る」取り組みを行っている。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	地域の有志で、自生している胡桃樹皮を活用した地域活動を始めた。
経 過	月 日	地域の遊休農地を有効活用するため、農水省山村活性化事業交付金の申請を行った。
	月 日	地域の有志で「ちちぶ吉田くるみの会」を設立し、遊休農地で胡桃栽培を行い、その樹皮を利用した手提げ籠バッグ等の商品化を進めた。
	月 日	会の活動をホームページや facebook、Instagram 等で情報発信したことで、籠編み体験教室や、皮むき体験に埼玉県内外から訪れるようになった。
	月 日	さらに 未利用の栗園や梅園、柚子畑等を地域有志で草刈り、剪定作業等を行い、遊休農地発生防止に努めている。

4 連携した組織（団体名）

ちちぶ吉田くるみの会、秩父サヤカクラフト協議会

5 取組結果

ちちぶ吉田くるみの会の活動が農文協「季刊地域」56 号に掲載された。
 今後も、ちちぶ吉田くるみの会のメンバーを中心に、未利用の農地の草刈り、未利用の資源採取を行い、さらには未利用の梅もぎ体験や栗拾いイベント等も計画しながら、少しでも遊休農地の発生防止、解消につながる取り組みを推進したい。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 担い手のいない農地の利活用の推進 》 ～

1 農業委員会名・委員名

横瀬町農業委員会

石黒 夢積 推進委員



2 取組内容

ぶどう農家がぶどうの栽培を一部やめる話を聞いたので、農家を訪問したところ年齢的に栽培を続けることが難しいとのことであった。農地の縮小を検討しており、引き続き栽培をする人がいるならば任せたいとの意向であることがわかる。農地の利用をする人がいないか農業委員や推進委員に相談したところ、農作業受託での活用方法が見つかった。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	4月3日	ぶどう畑を手放す話を伺う。
経過	4月7日	農家を訪問。年齢的に栽培地の縮小を検討していることが分かる。
	4月9日	農業委員や推進委員に相談し、引き継ぐことの出来る人がいるか検討・声かけを行った。
	4月13日	農作業受託による農地の利用希望があった。畑の所有者と土地利用者の二者による話し合いを行い、活用するに至った。
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

--

5 取組結果

100 坪のぶどう畑の栽培を継続することが出来た。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地活用 》 ～

1 農業委員会名・委員名

皆野町農業委員会

浅見農業委員会長 他 18 人



2 取組内容

町報やホームページを通じて参加者を募集し、ジャガイモの栽培体験を実施。農業委員・農地利用最適化推進委員全員で本事業を行い、遊休農地発生防止のために努めている。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	12 月 26 日	農業委員会定例総会の際に遊休農地解消・発生防止及び農業について学んでもらうため、体験の実施を決定した。
経過	4 月 1 日	種芋の植え付けを実施。
	5 月 13 日	畝寄せと草刈り作業を実施。
	6 月 24 日	収穫作業、その後収穫祭（試食）を実施。
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

--

5 取組結果

町内外のグループ 12 組 44 人の方が参加し、ジャガイモ栽培体験を通して農業について学ぶ体験が実施できた。その体験を通じて遊休農地の発生防止につながった。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 担い手への農地集積 》 ～

1 農業委員会名・委員名

本庄市農業委員会
立石 勝義 農業委員
内田 信哉 農地利用最適化推進委員



2 取組内容

市内農家のもとで3年働いている若手農業者（23歳）が、独立して就農したいと考えていた。貸借可能な農地を自身で探していたが、空き農地がなく、実績がないため所有者に断られるケースもあったが、農業委員・農地利用最適化推進委員に相談したところ、借りられる農地がみつき、貸借につなげることができた。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和5年 2月	新規就農者対象の補助金の相談に市役所に来庁し、農地も探している旨の相談があった。
経過	4月～6月	農地を探していたが見つからず、農業委員会や農業委員等に相談。
	7月21日	農業委員・農地利用最適化推進委員の協力により、空いている畑を借りられる目処が立った。
	10月1日	貸借が成立し、借受者による耕作が始まった。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会、市農政課

5 取組結果

70a の畑を耕作者に貸し付けることができた。今後も、農業委員等の協力を得ながら、経営規模の拡大を目指している。また、補助金を活用しながら、農機具も揃えていく予定である。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 担い手への農地集積・集約化活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

美里町農業委員会

N 農業委員

写 真

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係るほ場等）を添付してください

2 取組内容

農地中間管理事業の地権者説明会、農地配分会議に積極的に参加し、地権者や担い手に事業を推進した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	4 月	農地中間管理事業担い手会議に参加し、担い手に事業を推進した
経 過	5 月	農地中間管理事業地権者説明会に参加し、地権者に事業を推進した
	6 月	農地中間管理事業配分会議に参加し、担い手へ農地をあっせんした

4 連携した組織（団体名）

美里町農業委員会、美里町農林商工課

5 取組結果

積極的に農地中間管理事業の会議に参加し、所有者の耕作者の利用調整に努めた。遊休化のおそれのある農地については、近くの担い手にあっせんをしたり、自らの農地の周辺の農地を借り受けた。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 農地利用促進活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

神川町農業委員会
藤牧 重徳 農業委員

写真なし

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係るほ場等）を添付してください

2 取組内容

砂利採取後に保全管理のみになっていた農地を活用するため、採取跡地（複数筆）の農地所有者と借り手（耕作者）の仲介及び書類作成の手伝いを行い、貸借権の設定へと繋げた。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	12月	借り手（耕作者）側より当該砂利採取跡地を活用したいとの相談があった。
経過	1月	事務局から地番や所有者等の情報を聞き、複数いる当該農地所有者へ貸し付けの意向があるか確認する。
	2月 ～ 3月	実際に所有者宅へ訪問して借り手の紹介を行ったり、書類作成の手伝いを行う等、所有者と借り手の仲介をする。
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

農業委員会

5 取組結果

保全管理のみになっていた約 0.6ha の農地を営農再開させることができた。（実際の貸借権の設定は令和 6 年度に行われる予定となっている。）

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～《地域計画の策定に向けた話し合いを重ね、問題に対して 10 年度のあり方を話し合い》～

1 農業委員会名・委員名

熊谷市農業委員会
西田茂夫 推進委員

写 真

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係る圃場等）を添付してください

2 取組内容

「地域計画」の策定に向けた玉井地区（玉井、久保島、新堀）の話し合いを 3 回にわたって開催し、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加等の問題に対し、10 年後の地域農業のあり方を話し合い、地域計画策定作業が前進した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	月 日	
経 過	8 月 3 1 日	1 回目（21 名出席） 地域の課題を出し合う。
	1 2 月 6 日	2 回目（39 名出席） 地域農業の現状及び課題、地域農業の将来のあり方や、10 年度の土地利用等について意見を出し合う。
	1 月 1 7 日	1 回目（21 名出席） 一筆ごとに 10 年後に耕作する耕作者を選定及び調整を行った。
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

埼玉県大里農林振興センター、埼玉県農林公社、JA くまがや、熊谷市農業政策課

5 取組結果

玉井地区は、モデル地区として市内でも作業が先行している。
今後も、地域の農業者と関係機関が連携しながら、地域計画策定作業を着実に進めていきたい。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地発生防止・解消活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

行田市農業委員会

川島悦男農業委員



2 取組内容

JA 出資型農業法人遊休農地再生活用事業による遊休農地の解消。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	7 月	農業委員に就任し、遊休農地対策をはじめた。
経 過	1 月	1.4ha の雑草刈り取り、耕うんの再生工事をトラクターで行った。

4 連携した組織（団体名）

農業委員会、土地改良区、JA ほくさい、埼玉県

5 取組結果

遊休農地を解消し、川島悦男委員自ら耕作できるように至った。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 新規参入支援活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

春日部市農業委員会

金子 正之 推進委員

写 真

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係るほ場等）を添付してください

2 取組内容

- ・ 地域農業者の今後の耕作意向の集約
- ・ 農業法人への農地の紹介と、地域農業者への中継ぎ
- ・ 関係機関等への紹介

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	12 月 8 日	地域農業者より、以前から「耕作者を探してほしい」旨の相談を複数受けていたところ、杉戸町の農業法人から春日部市への参入希望の申出があった。
経 過	12 月 9 日 ～	農地の紹介を行う。
	12 月 26 日	農業法人と市農業委員会・農業振興課に新規参入の打ち合わせを行った。
	2 月	農業法人と紹介した農地の状況確認を行った。
	3 月	農業法人が耕作することとなった圃場を法人、農地所有者と確認した。

4 連携した組織（団体名）

春日部市（農業振興課）

5 取組結果

農地の賃貸借の手続きが間に合わなかったため、令和 6 年度は作業受託として耕作することとなった。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 遊休農地発生防止活動 》 ～

1 農業委員会名・委員名

八潮市農業委員会
大塚 一宏 農業委員



2 取組内容

所有農地の隣地に、作付けされてはいないものの、年数回、耕耘されていた農地（田）があり、昨年、少し草が伸びていたのので声をかけたところ、耕作してほしいと頼まれ、承諾した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	11 月 30 日	境界の立ち会いで一緒に話す機会があり、相談を受けた。
経 過	12 月 1 日	トラクターで耕耘した。
	(5 月中旬)	(植付け予定)
	月 日	
	月 日	
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

--

5 今後の予定

13a ある田に水稻を作る予定であり、遊休農地化を未然に防ぐことができた。

農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《 耕作放棄地の解消と担い手への貸借 》 ～

1 農業委員会名・委員名

白岡市市農業委員会
岡安 広 農業委員

写 真

別添資料：データがなく写真を
スキャンしたもののため黒塗
りになってしまっております。

2 取組内容

土地改良区域内に約 14a の耕作放棄地があり、道路沿いに面しているため、ゴミ捨て場状態となり付近の農地に影響を与えていた。
土地所有者宅を訪れ、事情を伺った。一人暮らしで会社勤めをしているため、耕作ができず、管理も難しいとのことであった。
所有者に耕作放棄地対策事業を説明したところ、了承を得たので、市の耕作放棄地対策事業を行った。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	令和 5 年 6 月末日	農地パトロール実施中に耕作放棄地にゴミが投棄されていることが見受けられた。
経 過	7 月 12 日	土地所有者宅を訪問し、耕作放棄地対策事業の申請を説明し、了承を得た。
	9 月 25 日	市農政課に事業の情報提供者と申出書を提出。
	1 月下旬 ～ 3 月下旬	事業対象地を市の委託業者が除草等の工事を実施。
	令和 6 年 4 月以降	農業法人への利用権設定等による農地の貸借手続きが完了し、約 14a の遊休農地に伴う再生利用が可能となった。

4 連携した組織（団体名）

市農政課 農業委員会

5 取組結果

約 14a の遊休農地の解消に伴う再生利用が可能となった。

着工後(荒井新田)

日(5)



農地利用最適化推進 1・1・1 運動報告書（優良委員活動）

～ 《大字木野川地区の遊休農地解消活動》 ～

1 農業委員会名・委員名

杉戸町農業委員会	
農業委員	増山貞男・加藤互 宮田邦子
推進委員	木村忠由

写 真

取組者、または活動の内容がわかる写真（活動時の写真や、事例に係るほ場等）を添付してください

2 取組内容

次年度から耕作困難な農地となる旨の相談が地元農業委員にあり、遊休農地化を防ぐため、地元農業委員及び推進委員が中心となり、町産業振興課と連携して、除草作業や耕運などの維持管理を行うとともに、新たな担い手を確保した。

3 取組のきっかけと経過

きっかけ	8 月中旬	耕作者から来年度以降、数年間耕作できないとの相談あり。
経 過	8 月中旬以降	農業委員会が主体となり、新たな担い手を見つけるとともに、農地を維持管理することになった。
	9 月中旬	農地の維持管理作業（1 回目）
	10 月上旬	農地の維持管理作業（2 回目）
	月 日	

4 連携した組織（団体名）

農業委員会、町産業振興課

5 取組結果

新たな担い手を確保することができ、遊休農地化を未然に防止した。